

水産海洋学会研究発表大会シンポジウム  
—我が国周辺海域の生態系と漁業の比較分析：  
地域特性に応じた持続的利用と管理をめざして—

共 催：水産海洋学会，水産総合研究センター

日 時：2014年11月14日（金） 10：30～17：00

場 所：水産総合研究センター中央水産研究所 講堂（横浜市金沢区福浦2-12-4）

コンビーナー：清田雅史，米崎史郎（国際水研），牧野光琢（中央水研）

挨拶：時村宗春（中央水研所長）

10：30～10：35

趣旨説明：牧野光琢（中央水研）

10：35～10：45

I. 海洋環境・低次生産からみた日本周辺海域の特性

座 長：米崎史郎（国際水研）

1. 日本周辺海域の海洋環境の特徴

10：45～11：10

亀田卓彦（西海水研）

2. 日本周辺水域における動物プランクトンの特性

11：10～11：35

田所和明（東北水研）・日高清隆（水産庁）・広田祐一・市川忠史（中央水研）・亀田卓彦・北島 聡（西海水研）・森本晴之（日水研）・西内 耕・杉崎宏哉（水研セ）

II. モデリングを通じた生態系と漁業の特性解析

座 長：牧野光琢（中央水研）

3. 東北沖底魚調査データからEcopathモデルを構築する

11：35～12：00

米崎史郎（国際水研）

—昼 食—

12：00～13：30

4. Ecopathを用いた藻場再生活動の漁業への影響評価：東京湾の場合

坂本絢香（東大大気海洋研）

13：30～13：55

5. 日本海のレジームシフトによる生態系と漁業の変化：Ecopathによるアプローチ

田 永軍（日水研）

13：55～14：20

6. Ecopathを用いた生態系の特性把握と漁業のインパクト評価

清田雅史（国際水研）

14：20～14：45

—休 憩—

14：45～15：00

III. 地域特性に応じた持続的利用と管理に向けて

座 長：清田雅史（国際水研）

7. ナマコ漁業管理の地域特性：北海道・東北・九州の比較から

牧野光琢（中央水研）

15：00～15：25

8. 我が国の資源管理計画から見た地域漁業の特性

金子貴臣（中央水研）

15：25～15：50

9. アマモ場・干潟保全に関する利害関係者分析：北海道・東京湾・瀬戸内海・沖縄の比較から  
但馬英知 ((株) タジマラボ) 15:50~16:15
10. 望ましい生態系の姿とは? : 認知心理学を用いた Well-being の国際比較分析  
法理樹里 (立教大学/中央水研) 16:15~16:40

#### 総合討論

- 座長：清田雅史 (国際水研) 16:40~17:00

**開催趣旨：**昨今、海の利用と管理をめぐる世界的議論は、かつての利用と保護の二極対立から、生態系の構造や機能と人間活動との関係に注目する「生態系に基づく管理 (Ecosystem-based Management)」や「体系的保全計画 (Systematic Conservation Planning)」へ移行しつつある。これは、生態系から得られる価値やサービスを持続的に引き出すため、異なる利害関係者の意見を調整しながら、目標を設定し、協働的な管理の枠組みを構築してモニタリングと評価を実行する包括的アプローチである。しかし、異なる生態系によって望ましい生態系サービスの姿は異なるとともに、人間側の要因も自然環境と密接に関連することが明らかになってきた。これからの水産科学は各地域の生態系と社会と福利構造の特徴に則した研究を進め、生態系レベルでの比較検討を通じて合理的な利用や管理のあり方を検討すべきである。我が国の水産業は、資源・生態系、漁具・漁法、利用・流通いずれも極めて多様性が高い点で世界的に比類ない特徴を有しており、それを成り立たせている自然環境と社会的要因の双方にまたがった水産システムの総合研究を展開することで、我が国のみならずアジア諸国等にも役立つ重要な研究成果が得られるものと期待できる。本シンポジウムでは水産総合研究センターを中心に近年取り組んでいる分野横断的な生態系と水産業の比較分析研究を紹介し、国内外への具体的応用の可能性を探る。